

標記テーマについて、以下の通り参考事例を挙げさせていただき、要点を簡単にまとめさせていただきます。

1. 参考事例

○つくば霞ヶ浦りんりんロード <https://www.ringringroad.com/>

- ・茨城県筑波山、霞ヶ浦に敷設されたサイクリングロード。全長約180km。
 - ・筑波山方面の2コースと霞ヶ浦湖岸の3コースをモデルコースとする。
 - ・旧筑波鉄道の廃線をコースに、元駅舎を休憩所に転用するなど老朽インフラも活用。
 - ・ルート上に404か所ものサポートステーション（含む協力施設）あり。
-
- ・令和元年11月、国土交通省が自転車活用推進計画に基づき、ナショナルサイクリングルートに指定。現在、他に指定されているのは以下の5ルート。
 - ①琵琶湖を一周する“ビワイチ”
 - ②瀬戸内海を渡る“しまなみ海道サイクリングルート”
 - ③北海道十勝“トカプチ400”
 - ④千葉県から和歌山県まで至る“太平洋岸自転車道”
 - ⑤“富山湾岸サイクリングコース”。

○りんりんスクエア土浦 <https://www.ringringroad.com/square/>

- ・全国初の駅直結のサイクリング拠点施設。つくば霞ヶ浦りんりんロードの拠点。
- ・事業主体は茨城県。土浦市とJR 東日本が連携して整備。
- ・サイクリスト向けのサービスをワンストップで提供。シャワー、ロッカー、更衣室等完備。
- ・レンタサイクルあり（500円～4,000円）
- ・平成30年3月開業。

2. 選定の根拠

- ・“With コロナ”という新用語の定義はまだ定まっていないものの、今回のテーマを“感染リスクを抑えるために密を避けながら集客を図るもの”と解釈しました。

その条件に見合うものとして、屋外でのアクティビティーに絞って検討しました。候補としては他にも、キャンプ、BBQ、釣り(海、川)、ダイビング、トレッキングなどが考えられましたが、コロナ禍以前からの健康志向の高まりなどを背景にした愛好者の増加や、講義の中でも指摘された“観光客のみならず、住民も参加し楽しめるもの”との視点も勘案し、サイクリング関連の施設を選びました。

3. 両施設の利用状況

(1) つくば霞ヶ浦りんりんロード

	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)
利用者数	39,000人	48,000人	55,000人	81,000人	93,000人	105,000人
対前年度比	－	約1.23倍	約1.15倍	約1.47倍	約1.15倍	約1.13倍

(データ：茨城県ホームページより)

- ・利用者は着実に増加、堅調に推移しています。
- ・茨城県県民生活環境部では、増加の要因は健康志向の高まり、アウトドア志向の高まり、星野リゾート BEB5 土浦の開業、休憩所のリニューアルなどとしています。
- ・コロナ禍との関係でいえば、“コロナ禍にも関わらず”なのか、“コロナ禍故に”なのか、分析は難しいと思います。ただ、いずれにせよ、前述の通りの要因も踏まえ、潜在的に一段の増加余地があることを示唆していると考えます。

(2) りんりんスクエア土浦

	令和2年度実績	令和元年度実績	平成30年度実績
①年間利用日数(日)	310	359	362
②年間利用者数(人)	10,591	11,752	11,159
③利用料収入(円) (指定管理者収受額)	8,913,070	9,988,114	5,877,339

(データ：土浦市ホームページより)

- ・歴史が浅いため、データも乏しいですが、1営業日あたりの利用者数(*1)で比べると、順調に推移しているものとうかがわれます。

*1：平成30年度 31人、令和元年度 33人、令和2年度 34人

(3) その他サイクリングロードの利用者数

- ・しまなみ海道 サイクリングロード (データ：国土交通省資料より)

利用者数：平成24年 17.4万人、平成27年 32.5万人、平成30年 33.2万人

レンタサイクル貸出数：平成26年 11.6万人、平成28年 14.1万人、

平成30年 13.2万人

尾道市 サイクリング客数 (データ：尾道市産業部より)：

平成29年 20.4万人、平成30年度 18.8万人、平成31年度 21.7万人 (過去最高)

概ね底固い増加基調にあるものと見て取れます。

- ・ビワイチ（データ：滋賀県商工観光労働部資料より）

利用者数：平成27年 5.2万人、平成29年 9.5万人、令和元年 10.9万人、令和2年 8.7万人

令和2年は約2割減少しましたが、県商工観光労働部では、県内の観光入り込み客数が約3割減少したとと比較すると減少率は限定的であったととらえていました。

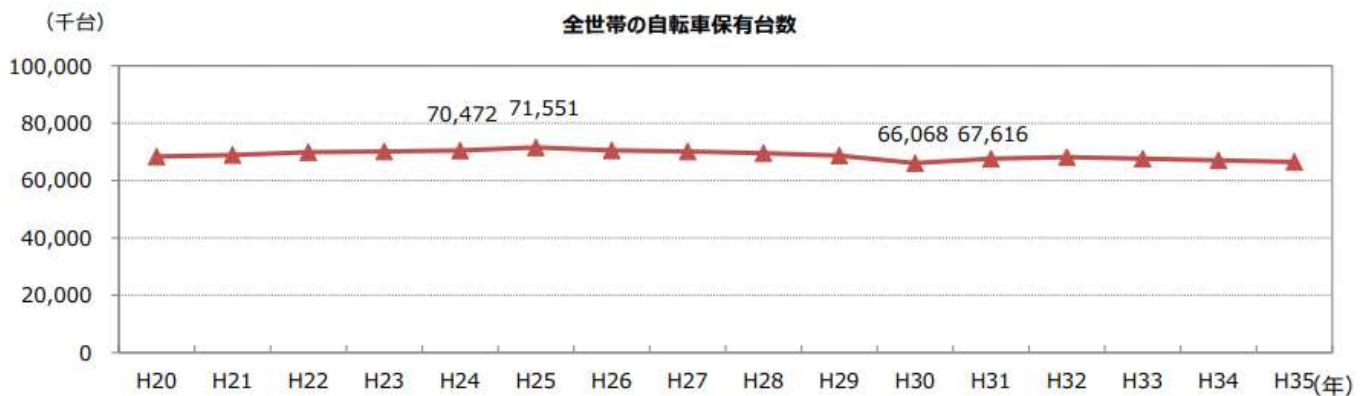
- ・富山湾岸サイクリング（データ：富山県自転車活用推進計画資料より）

イベント参加者：平成27年 627万人、平成28年 959人、平成30年 1,425人
※2021年5月に指定されたばかりであり、その他データなし。

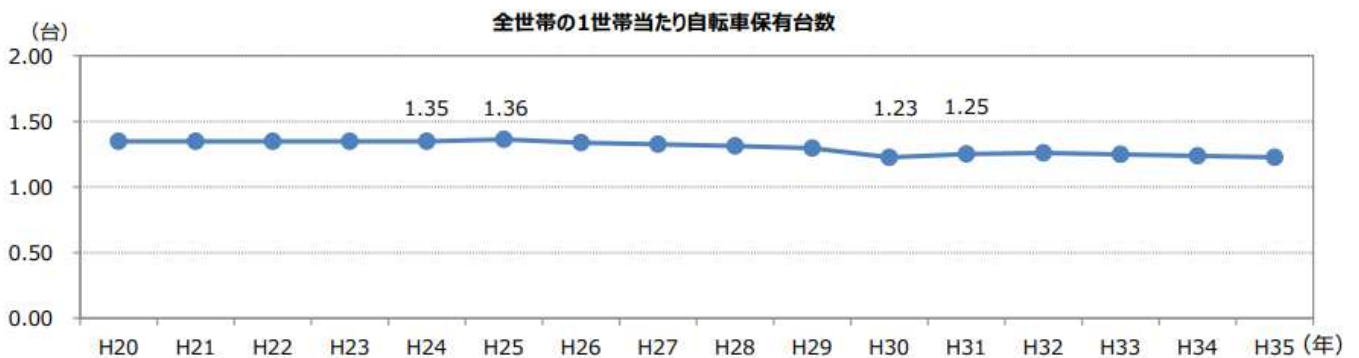
（4）自転車保有台数、販売台数

- ・自転車保有台数（平成30年10月時点の推計。データ：自転車産業振興協会）

全世帯の自転車保有台数は漸減傾向から、下げ止まりの気配です。



全世帯の1世帯当たりの自転車保有台数も同様に、漸減傾向から下げ止まりの気配です。



- ・自転車新車販売台数（データ：自転車産業振興協会 自転車国内販売動向調査より）

平成27年 8,020千台、平成28年 7,793千台、平成29年 7,668千台、平成30年 7,032千台、令和元年 7,124千台、令和元年 7,177千台

- ・2020年販売額は2,100億円を超え、過去最高を更新（記事：帝国データバンク）

4. 今回の研究において

- ・自転車はコロナ禍を経て、移動手段としてのニーズが一段と高まると予想され、観光誘客においてもより重要な役割を演じるものと考えます。ただ、単にサイクル・ツーリズムの視点のみでは面白みに欠けます。

これまでにゼミメンバーから紹介・提案された集客交流拠点の具体的事例の中で、例えば、道の駅や宿泊施設、廃校利用、公園再生事業などにおいてサイクリングの拠点化やサイクリストの誘客を図る発想を取り入れてみても面白いのではないかと考えます。

(以上)